



2 滑走路跡

この道路は、宇佐海軍航空隊の滑走路に重なるように建設されています。太平洋戦争末期に、特攻機がここから南の空に飛び立ちました。この場所は、関係者が帽子をふって見送った場所でもあり、モニュメントが立てられています。



東大寺別当揮毫の記念碑

3 爆弾池

宇佐海軍航空隊跡の田んぼの中に、爆弾が落ちた直径10mほどの大きな穴があります。終戦間もない頃には、池のような大きな穴がたくさん残っていましたが、現在はこれ一つとなっています。



4 レンガ造りの建物

住宅地の中に残るレンガ造りの建物です。施設名などは不明ですが、壁に残る多くの弾痕は、戦争の脅威を今に伝えています。



5 特攻隊慰霊碑

柳ヶ浦高校正門前に、忠魂碑とともに特攻で戦死した飛行予備学生出身士官の氏名を刻んだ慰霊碑があります。毎年4月16日に慰霊祭が行われます。



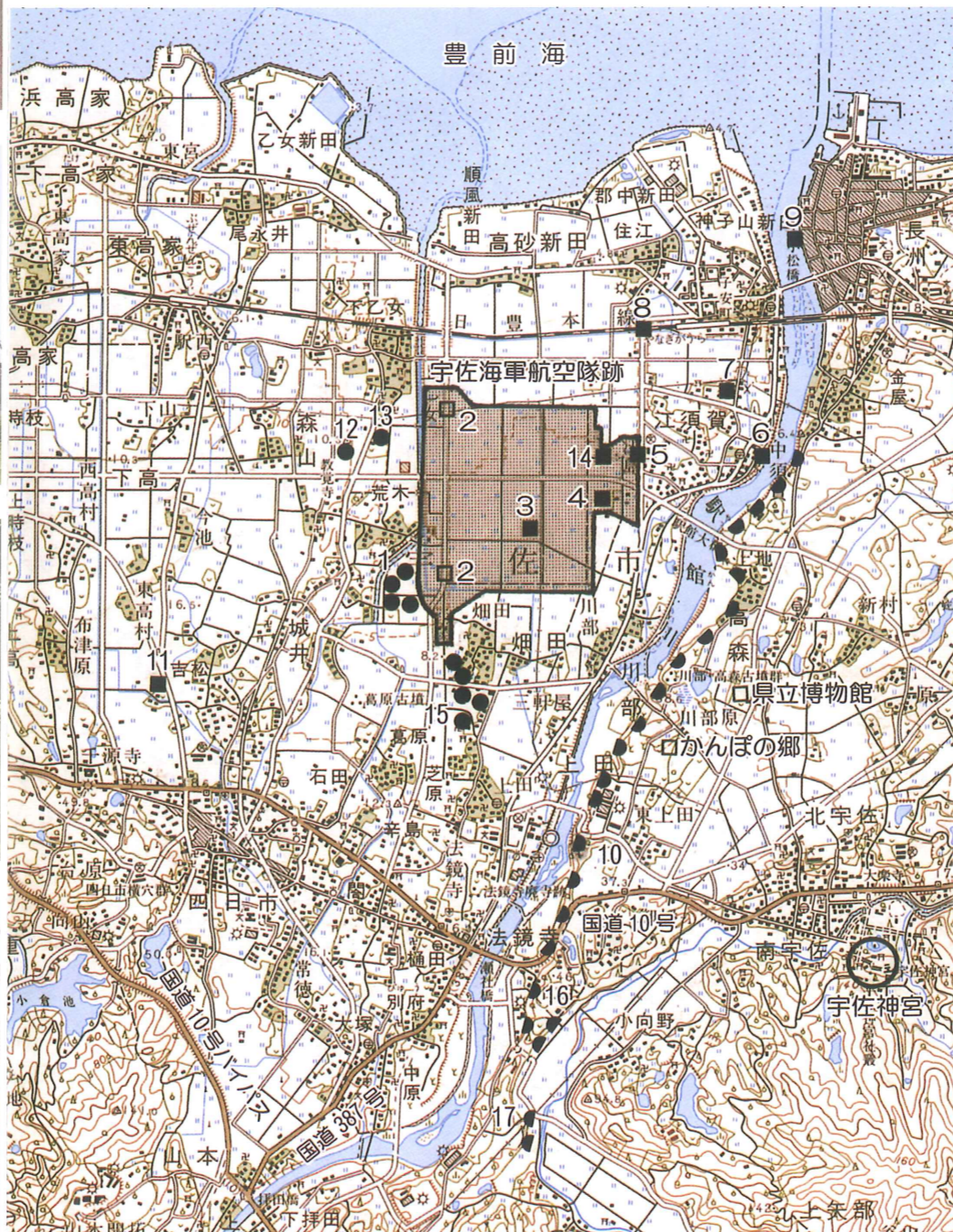
6 蓮光寺の山門

昭和20年、米軍の空襲により江須賀地区の蓮光寺本堂や周辺の民家が全壊しました。しかし、この山門だけは奇跡的に戦火をまぬがれたため「生残り門」と呼ばれるようになりました。



宇佐の戦争遺跡

平和への願い



1 宇佐市指定史跡 城井1号掩体壕

7 柳田清雄の碑

柳ヶ浦小学校には、昭和20年の空襲で倒壊した石碑の一部があります。石碑には幕末の思想家の柳田清雄(江島出身)の功績が記されており、戦時下の子供たちの思想教育に役立てようとしたものです。



8 航空隊踏切

JR日豊線柳ヶ浦駅の西側に、宇佐海軍航空隊があったことを知る踏切があります。線路のわきにある計器箱には、「航空隊踏切」と書かれています。



9 海軍栈橋

駅館川河口の長洲地区に、宇佐海軍航空隊のカッター(軍艦などにのせる短艇)練習に使用されていた栈橋が残っています。



10 高居横穴壕

駅館川東側の崖には、空襲を逃れるために掘られた防空壕がたくさんあります。入口は目立たないようなやぶの中にあり、横穴が迷路のように掘られています。



11 爆撃痕が残るコンクリート塀

吉松地区の民家に、昭和20年4月26日、7月15日の米軍機による攻撃を受けて痛々しい姿となった塀が残されています。この塀は、戦争の脅威を今に伝える資料として当時のまま保存されています。



- 主な戦争遺跡
- 掩体壕
- 横穴壕
- 12 森山地区掩体壕(中型)
- 13 無蓋掩体壕
- 14 エンジン調整室跡
- 15 畑田地区掩体壕
- 16 弾薬庫跡
- 17 隧道倉庫跡

宇佐海軍航空隊に関するおもな歴史

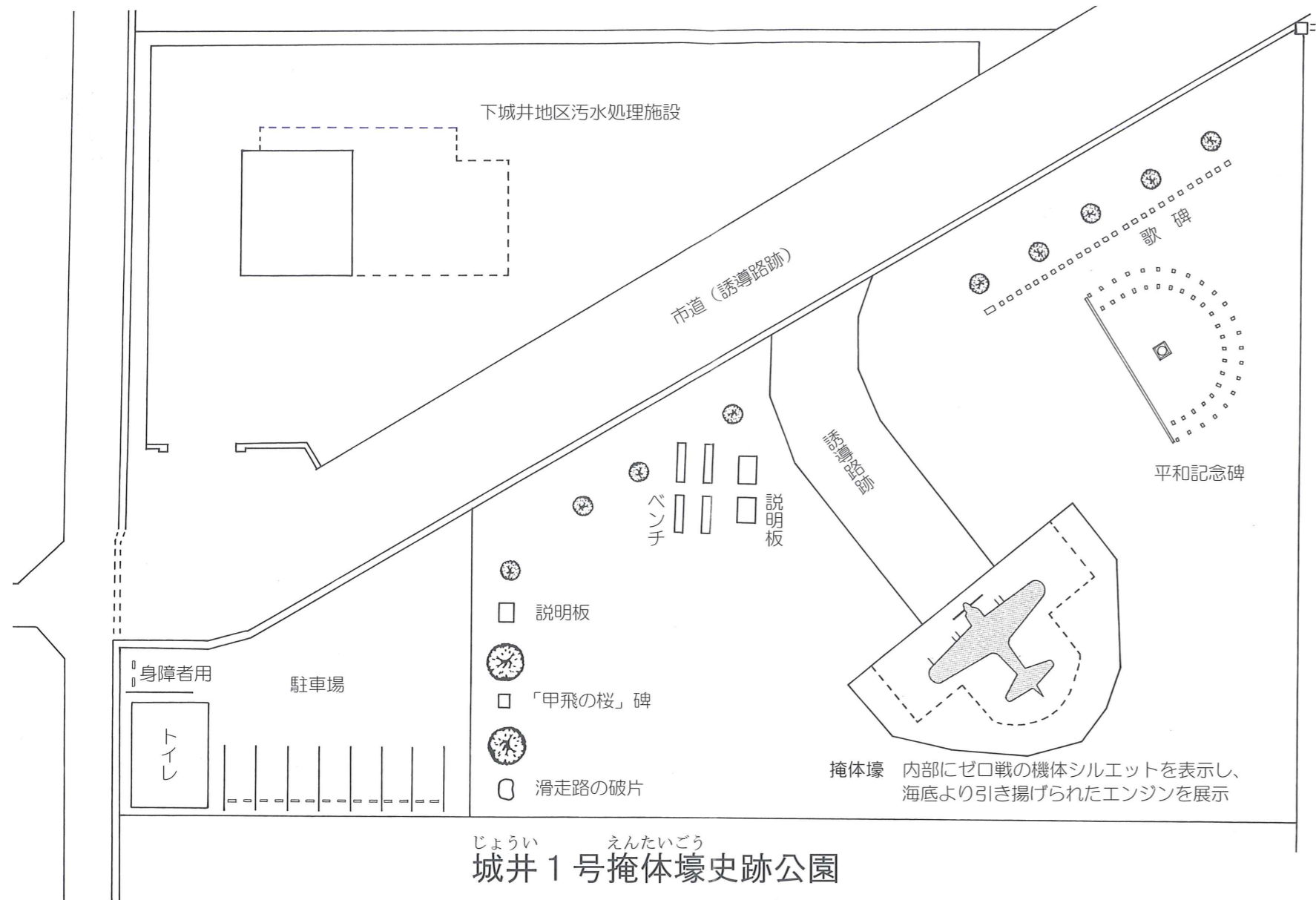
(1939)

- 昭和14年10月1日 宇佐海軍航空隊が練習用航空隊として開隊される（隊員数約800名）。
- 昭和16年12月8日 ☆日本軍のハワイ真珠湾攻撃により太平洋戦争がはじまる。
- 昭和18年7月9日 一般人や学徒の勤労奉仕隊により無蓋掩体壕づくりが始まる。
- 昭和19年2月15日 柳ヶ浦駅から航空隊までの引込線完成（現在の市道）。
- 昭和20年1月初旬 有蓋掩体壕づくりが始まる。
- 2月11日 宮崎の赤江基地より、神雷部隊（人間爆弾「桜花」による特攻隊）が約30機の「一式陸上攻撃隊機」で移動してくる。
- 2月24日 高森地区の駅館川東岸台地において、司令部が入る防空壕の建設工事を始める。
- 3月1日 宇佐海軍航空隊が作戦部隊となる。
- 3月18日 宇佐海軍航空隊が米軍機（グラマン・コルセア戦闘機など）による最初の空襲をうける。出撃態勢にあった神雷部隊の一式陸上攻撃機が被害をうける。
- 4月1日 宇佐海軍航空隊の保有機157機、隊員の定数2,486名。
- ☆米軍が沖縄本島に上陸（日本軍・住民の死者20万人以上）。
- 4月1日 神風特別攻撃隊の第1次八幡護皇隊が、串良基地などに進出。以降4月16日まで、第2・第3次と次々に編成されて進出して行く。
- 4月21日 米軍重爆撃機（B-29）による空襲をうける（住民の死者多数・軍関係の死者約320名）。
- 航空隊は壊滅的被害。三州国民学校（現・柳ヶ浦小学校）、柳ヶ浦高等女学校（現・柳ヶ浦高校）などが炎上。
- 以降、4月26日、5月7・10日、8月8日にも米軍重爆撃機による空襲をうける。
- 4月下旬 出撃前の野村茂上飛曹が長洲国民学校のピアノで「トロイメライ」などを弾く。（4月28日、鹿屋基地から出撃戦死）
- 5月5日 解隊され、西海軍航空隊宇佐基地となる（残存機26機）。
- 5月7日 八面山上空にて山口県小月基地の陸軍機が米軍機（B-29）に体当たりし、撃墜する。捕虜2名を宇佐基地に連行する。
- 8月6日 ☆広島に原子爆弾が投下される。（死者20万人以上）。
- 8月8日 米軍による空襲で、航空隊周辺の畑田・江須賀地区などが大きな被害をうける。
- (1945) 8月9日 ☆長崎に原子爆弾が投下される。（死者10万人以上）。
- 昭和20年8月15日 ☆終戦。

☆は世界・日本のおもな出来事

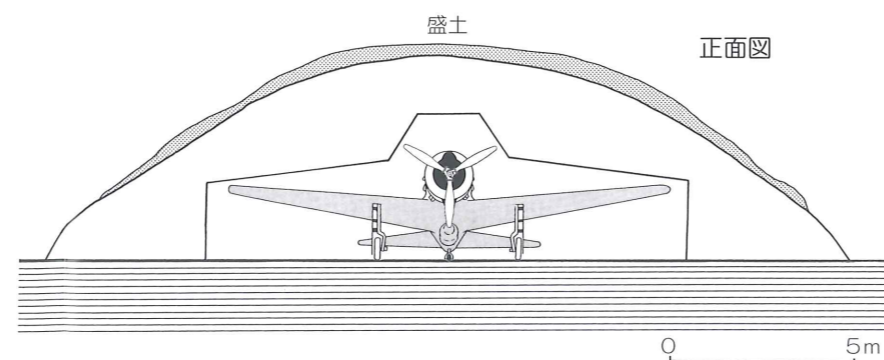
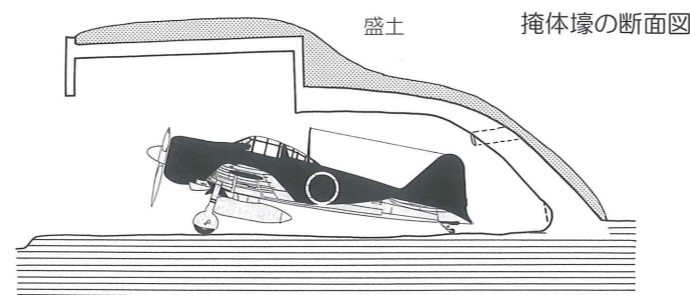
午後、飛行作業。いくらか空中観念をとりもどして来た。風はほとんどなし。ほそい銀色の駅館川、周防灘、国東半島、南は別府湾、すべて薄かすんでいる。春の立つ気配である。空からの眺めをたのしむ余裕も多少出て来たようだ。

阿川弘之 著 『雲の墓標』より



城井1号掩体壕史跡公園

所在地 宇佐市大字城井159番地の3
規模 幅21.6m 奥行き14.6m 高さ5.4m



宇佐海軍航空隊は昭和14年(1939)10月1日、練習航空隊としてつくられました。しかし、米軍の空襲をうけるようになった昭和20(1945)年の太平洋戦争末期には特別攻撃隊の基地となり、多くの若者が南の空に飛び立っていきました。

掩体壕とは軍用機を敵の空襲から守るための施設です。柳ヶ浦地区を中心とした基地の規模は東西1.2km、南北1.3kmで、約184haありました。戦後、飛行場などのあとは、水田や道路にかえされており、その面影を残すのは10基の掩体壕などわずかな遺構だけです。

宇佐市では戦後50年の節目を「平和元年」とし、この負の遺産を平和のシンボルとして21世紀に伝えることにしました。その第一歩として、平成7年3月28日に城井地区にある掩体壕1基を史跡に指定し、平成9年度に周辺用地を含め史跡公園として整備しました。